

地域の会 質問・意見書

日付： 2022年 12月 20日

氏名 宮崎 孝司

東京電力

に対する 質問 ・ 意見 (いずれか○)

1. 4号機大物搬入建屋の杭のヒビ割れについて

11月2日の地域の会の報告に、4号機大物搬入建屋の杭にヒビ割れについて報告がありました。6本の杭すべてにヒビがあったとのことで驚きました。中越沖地震の際、7号機原子炉建屋やタービン建屋に多数のヒビができました。このヒビに対して幅、深さ、貫通したかどうかなど詳しく公表されました。また、その後、ヒビに樹脂を流し込んで、地下水の浸水を防ぐ対策をしたと聞きました。対策後の壁を見せてもらったこともありました。

中越沖地震のヒビの報告と比較すると「6本の杭のヒビ」の報告が雑に感じました。

次のことを報告してください。

(1) ヒビの形状と位置 (ヒビ1本1本について床面からの位置、方角・方向=垂直とか水平とか斜めなど) 中越沖地震では、4号機に設計時の想定を大きく超える揺れが加わりました。

南北方向に310ガル (設計想定193)、東西方向に492ガル (同194)

上下方向に337ガル (同235) この揺れとヒビの方角・方向が関係しているか知りたい。

(2) ヒビそれぞれの長さ、最も深い深さ=杭の中の鉄骨に届いたかどうか

ヒビの長さが示されていないのは、杭全周にできたということか。

(3) 大物搬入建屋の杭と同じ深さにあるに4号機建屋の壁にヒビはあったのかなかったのか。

あった場合の位置 (大物搬入建屋の床面からの位置、方角・方向)

(4) 「耐震性能に影響がない」とあるが、建設時の想定をもって「杭」を建設したはず。それが、想定を超える揺れで「ヒビ」が生じた。でも「耐震性能」は変わらないという評価は理解できない。

「ヒビ」が何本出来ても、「耐震性能に影響がない」とする根拠を示されたい。

(5) 今後、ヒビの進展はないのか。できたヒビを補修しないのか。補修すれば建設時の「耐震性能」と同じ杭になるのか。

(6) 「ヒビ」ができた原因

(5) までの質問は、地震動によって「ヒビ」ができたことを前提に質問した。

ここでの質問は、地盤の変形が関係していないか質問する。

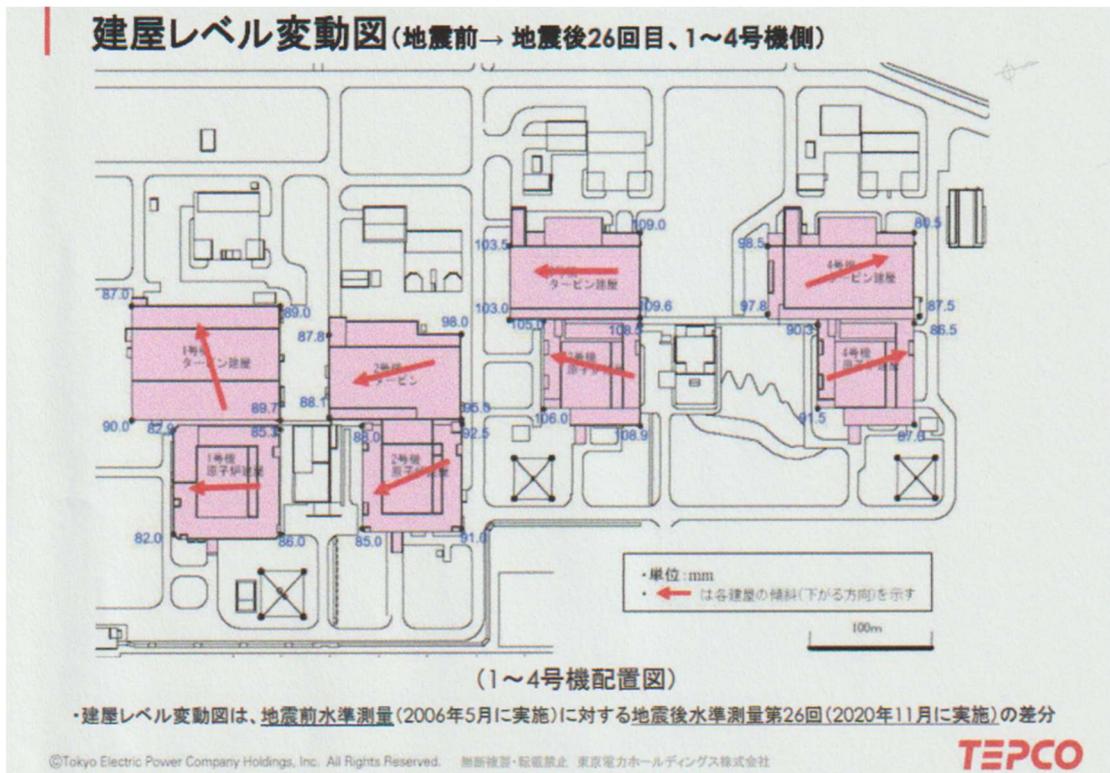
6号機の杭の「ヒビ」は、杭が「ゆがんだ」際、地盤にあった「固い層」に衝突してできたと説明されている。衝突していない杭は「ゆがんだ」が、「ヒビ」は出来ていない。

4号機の近くに「断層=F5」がある。また中越沖地震の際、荒浜側号機の中で4号機のみ東側に傾いた。杭は岩盤西山層に立脚しているが、その上は岩盤とは言えない「安田層」に支えられている。

4号機の杭のヒビができた原因は、急激な傾きによってできたのではないかと想像した。

「ヒビ」ができた原因は何か。

参考



2. 2019年から2020年にかけて東京電力が、柏崎平野南東部の丘陵でボーリングをした。それを論文にして発表するとのことだったが、いまだ公開されていない。論文は公表されていなくても、私が質問した内容は答えられるはずだ。

2020年2月の地域の会で、「安田層と古安田層の間にある『不整合』となる地点」を示してほしいと質してきた。これは、論文にして説明してもらわないことだ。地図で、ここにあると示してもらえばよいこと。論文発表前に、地図で示されることを求めます。